

## 令和2年度第3回東松島市地域支え合い推進委員会

日 時：令和3年2月26日（金）  
午後1時30分～

場 所：東松島市赤井市民センター  
ホール

---

### 次 第

---

#### 1. 開 会

#### 2. 開会挨拶

東松島市地域支え合い推進委員会  
委員長 根元 藤夫

#### 3. 協議事項事項

- (1) 令和2年度東松島市生活支援体制整備事業及び  
令和3年度東松島市生活支援体制整備事業の方向性について

資料1

- (2) 令和2年度第2回地域支え合い推進委員会意見について

資料2

#### 4. その他

#### 5. 閉会挨拶

東松島市地域支え合い推進委員会  
副委員長 齋藤 あや子

#### 6. 閉 会

東松島市地域支え合い推進委員会委員名簿

令和3年2月26日現在

◎委員長 根元 藤夫

○副委員長 齋藤 あや子

NO	氏名	所属	区分
1	相澤 宏智	東松島市役所 総務部 市民協働課	(ア)
2	加来 尊子	東松島市東部地域包括支援センター	(イ)
3	長畑 久美子	東松島市西部地域包括支援センター	(イ)
4	渡邊 智仁	ぱんぷきん介護センター	(イ)
5	根元 藤夫	赤井地区自治協議会	(ウ)
6	千葉 圭悟	大曲まちづくり協議会	(ウ)
7	大野 文武	矢本東まちづくり協議会	(ウ)
8	内海 茂之	矢本西コミュニティ協議会	(ウ)
9	松谷 善雄	大塩自治協議会	(ウ)
10	立川 重行	小野地域まちづくり協議会	(ウ)
11	藤原 修一	野蒜まちづくり協議会	(ウ)
12	尾形 将親	宮戸コミュニティ推進協議会	(ウ)
13	齋藤 あや子	東松島市民生委員児童委員協議会	(ウ)
14	熊谷 かちこ	東松島市レクリエーション協会	(ウ)
15	内海 國雄	東松島市老人クラブ連合会	(ウ)
16	石垣 武	NPO法人 東松島まちづくり応援団	(エ)
17	浅野 勝則	J Aいしのまき	(エ)
18	遠藤 大輔	アグリートなるせ	(エ)
19	眞籠 孝史	東松島市社会福祉協議会	(オ)
20	野崎 瑞樹	東北文化学園大学	(カ)

事務局

東松島市 社会福祉協議会 地域福祉課	事務局次長 千葉 貴弘	東松島市役所 保健福祉部	課長 小山 隆
	地域福祉推進係長 阿部 和子	高齢障害支援課	課長補佐 渥美 勝夫
	CSW 渡辺 英人	包括ケア推進係	係長 葉原 正博
	CSW 本田 栄子		主任 小野寺 昭博
			主査 佐々木 智哉

## 令和2年度東松島市生活支援体制整備事業及び

### 令和3年度東松島市生活支援体制整備事業今後の方向性について

#### 令和2年度 東松島市生活支援体制整備事業 第1層の取り組み

##### 1. 地域支え合い推進委員会 3回実施

###### ①第1回地域支え合い推進委員会

令和2年6月29日(月) 10:00～ 矢本東市民センター

###### ②第2回地域支え合い推進委員会

令和2年11月10日(火) 10:00～ 矢本西市民センター

###### ③第3回地域支え合い推進委員会

令和3年2月26日(金) 13:30～ 赤井市民センター



##### 2. 研修及び生活支援コーディネーター情報交換会への参加

###### ①三市三町(仙塩地域及び東松島市)生活支援コーディネーター情報交換会

令和2年7月21日(火) 13:30～ 野蒜市民センター

※各市町の取り組み状況及び今年度計画についての報告

###### ②石巻圏域生活支援コーディネーター情報交換会

令和2年10月28日(水) 13:30～ 石巻市みなと荘

※各市町のコーディネーターの活動内容報告



###### ③宮城県生活支援コーディネーター養成研修

研修1 令和2年7月22日(水) 13:00～16:30 古川商工会議所

研修1-2 令和2年8月3日(月)～4日(火) ホテルサンシャイン佐沼

研修2 令和2年8月27日(木)～28日(金) フォレスト仙台

研修3 令和2年12月2日(水)～3日(木) 勝山カンファレンスルーム

※生活支援体制整備事業の説明と地域福祉コーディネーターについて、協議体の運営方法について第2層協議体メンバーの希望者と受講。赤井5名、矢本東1名参加

###### ④宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議情報交換会

令和2年12月16日(水) 13:30～15:30 ホテルサンシャイン佐沼

※県北部圏域の行政担当者と生活支援コーディネーターによる情報交換



###### ⑤ためまっぷに関する研修会

令和3年2月8日(月) 10:00～11:30 市役所南庁舎

※地域資源の住民啓発方法として、他市で取り組んでいる情報発信システムについての勉強会

###### ⑥その他

多機関ネットワーク会議を設置し、地域包括支援センター等との個別ケースの関り方や、個別ケースを共有する情報共有様式について情報交換を実施。(令和2年度3回) 東松島市民生委員児童委員協議会定例会などの定例会議への参加。(毎月1回)

### 3. 研修会の開催

#### 東松島市生活支援体制整備事業地域支え合い研修会

1日目 テーマ「地域支え合いと各団体、組織、個人の役割」

令和2年12月10日（木）14：00～16：00 赤井市民センター

参加者 34名（自治会役員、民生委員、協議体メンバー等）

令和2年12月10日（木）18：30～20：30 大曲市民センター

参加者 52名（自治会役員、民生委員、協議体メンバー等）



2日目 テーマ「本物の「支え」「合い」活動づくり5つのポイント」

令和2年12月11日（金）10：00～12：00 大曲市民センター

参加者 45名（第1層協議体、第2層協議体メンバー）

講師 ご近所福祉クリエイター 酒井保氏

※講演を通じ、2025年問題とフレイル予防、社会参加のつながり等を説明。担当課の他、市民協働課職員も研修会に参加。

当日アンケート結果については別紙参照

### 4. 地域ケア会議及びケース会議への参画

赤井地域	大曲地域	矢本東地域	矢本西地域
4件	7件	10件	4件
大塩地域	小野地域	野蒜地域	宮戸地域
1件	1件	3件	0件

主なケース内容として

- ・地域の認知症高齢独居の方の地域生活支援（見守り、ゴミ捨て）ケースについての検討
- ・高齢男性独居の方の緊急時の対応と見守りについて検討

令和2年度 第2層圏域の活動状況

地区名	今年度の計画	実施してきた内容	地域で出来ていること	課題	今後の方向性
赤井地域 (本田)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域自治会と地域福祉活動者の連携状況を 知るため情報交換会への参加</li> <li>●地域活動に 出向き、高齢者の現状と課題の 可視化、具体的な活動に関する協議</li> </ul>	<p>【赤井地域第2層協議体（おせっかい）】7回</p> <p>①赤井地区自治協議会 福祉部会が主催、協議体が共催で全10自治会と「福祉と健康にかかわる役員等との意見交換会」開催 計14回</p> <p>②意見交換会で出された各自治会の高齢者に関する現状と課題を整理し、地域できていること、今後の取組みについて協議。</p> <p>③市民センターだより“夢民”で意見交換会の報告や第2層協議体活動、コロナ禍におけるフレイル予防についての啓発</p> <p>【地域支援活動】</p> <p>①赤井小・南小学区民生委員の情報交換会へ参加し、民生委員活動や個別相談についての情報収集。</p> <p>②赤井南西地区民生委員情報交換会(寄り添いの会)に参加し、気になる方の情報収集を行い東部包括支援センターへのつなぎ。</p> <p>③認知症の理解と対応について、赤井南西地区「105ピン体操の会」参加者を対象に認知症サポーター養成講座開催。(8/6)</p>	<p>①各自治会で役員や民生委員が連携しながら高齢世帯や気になる世帯の見守り活動。</p> <p>事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地区老人クラブと民生委員、自治会役員等が連携し、資源ごみの回収時に地域の見守り活動。(柳西自治会)</li> <li>●自治会の班長が中心となり“気になる世帯”を把握を行っている。(柳北自治会)</li> </ul> <p>②各サロン団体は、新型コロナウイルス感染対策を行いながらフレイル予防としてサロン活動を継続。</p>	<p>①自治会は取り組みなければならない事業が多く、役員会等では支え合い事業について話し合う場や時間が取りにくい。</p> <p>②コロナ禍において、益々隣近所や地域住民が世代を超えて交流する機会が少なくなり、つながりの弱さを懸念する声がある。</p>	<p>①赤井地区自治協議会福祉部会と今後も連携し、各自治会役員や民生委員等と意見交換会を継続的に実施し、課題の抽出と、地域で出来ている事を地域の支援者が意識できるよう、関係課及び社協と連携して、今後取り組みを支援する。</p> <p>②福祉部会員と協議体メンバーの情報交換会を行い、地域の課題を共有し地域活動につなげる。</p> <p>社協支部長（自治会長）会議で支え合い活動についての理解を深める。</p> <p>地域支え合い活動（地域資源）の情報収集と地域での事業やサロン活動の際に、協議体と連携して活動の紹介をする。</p>
大曲地域 (本田)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支え合いに関する情報交換と地域活動啓発の継続</li> <li>●活動の質の向上を目的とした情報交換</li> </ul>	<p>【大曲地域第2層協議体(安心づくり事業部)】9回</p> <p>①地域支え合い活動（サロン活動）紹介とフレイル予防の啓発チラシを全戸配布。</p> <p>【地域支援活動】</p> <p>①大曲地区自治会 福祉推進委員交流会に参加。</p> <p>②五味倉地区支え合い検討委員会に参加。</p> <p>③転居が決まった高齢夫婦（包括が関わっている世帯）について、事前に民生委員に情報提供を行った。</p> <p>④サロン活動把握と新型コロナ感染防止対策について啓発。</p>	<p>①大曲地域全体で5月の付日に防犯パトロールを実施。パトロールに合わせて小学生の下校時の交通指導と高齢者を見守り。</p> <p>②福祉推進委員を配置し、民生委員の補佐的な機能を持ち見守りを行っている。年2回交流会を実施（大曲地区自治会）</p> <p>③9月に地域支え合い検討委員会を設置し、地域の高齢者の状況について情報共有するとともに、支え合い活動について協議を開始。（五味倉自治会）</p> <p>④各サロン団体は、新型コロナウイルス感染対策を行いながらフレイル予防としてサロン活動を継続。</p>	<p>①横沼地区自治会と上納地区自治会の地域支え合いに関する考えや思いについて、詳細に把握できていない。</p> <p>②安心づくり事業部の事業計画に上げられている、高齢者・一人暮らしの生活支援事業に関して話し合いを深める必要がある。</p>	<p>①まちづくり協議会や福祉部会、安心づくり事業部、市民センターと連携し、各自治会との地域支え合いに関する意見交換会の実施について検討する。</p> <p>②地域の高齢者の生活ニーズを生活支援コーディネーターが、ひがまつ安心サポート事業への同行や介護支援専門員から情報収集をおこない、その情報をもとに、高齢者の生活支援について協議体で話し合いを進める。</p>
野蒜地域 (渡辺)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●野蒜地域協議体との地域アセスメント</li> <li>●事例発表会や地域資源一覧表の更新による 地域資源の周知・啓発</li> </ul>	<p>【野蒜地域第2層協議体】6回</p> <p>①コロナ禍において、宮野森小 学校で児童用マスクの予備が不足しているとの声を聞いた協議体メンバーが協力してマスク作成を行うなど協議体メンバー間の協働関係が深んだ。</p> <p>【地域支援活動】</p> <p>①地域の集いの場である百歳体操等の活動状況の把握。</p> <p>②民生委員の情報交換会へ参加し、地域状況や活動状況の把握と相談対応。</p>	<p>①8つの自治会区域全てで百歳体操を実施している。百歳体操が参加者の社会参加の場になっており、またお互いの体調や暮らしぶりを気にかける機会となっている。</p> <p>②防災集団移転地では、震災前からのつながりに加えて、応急仮設住宅で育んだ関係性が生かされている。（野蒜ヶ丘）</p> <p>③一人暮らし高齢者の交流会（食事会）を実施。（浅井地区）</p>	<p>①集いの場の運営に関して業務負担が代表者に集中して疲弊している団体がある。</p> <p>②認知症の高齢者に対する地域での見守りのあり方について検討が必要。</p>	<p>①集いの場の運営に関して、代表者が担っている業務内容の確認を行い、他の人に頼めるところや簡素化や廃止可能なことはないか一緒に検討する。</p> <p>②認知症の高齢者への見守りのあり方について、自治会役員や民生委員児童委員と、地域包括支援センター等で協議する場をつくる。</p>
大塩地域 (本田)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動課題についての現状把握</li> <li>●通いの場を通じた地域活動者、キーパーソンの把握</li> <li>●福祉関係者と地域キーパーソンの情報共有の機会創出</li> </ul>	<p>【大塩地域第2層協議体】4回</p> <p>①協議体で地域課題を踏まえ「あったらいいな～こんな事」をテーマに、取り組んでみたいことを出し合った。優先順位ややりやすさなどを考慮し、今後の活動につなげるきっかけとした。</p> <p>②百歳体操実施状況を認知症地域支援推進員活動である「ひとこえあいさつ運動」へ情報提供。</p> <p>【地域支援活動】</p> <p>①サロン活動への訪問を通じて、地域の支え合い活動状況の把握とキーパーソンとの関係づくり。</p> <p>②裏沢地区センター改修に伴い、百歳体操の実施場所を市民センターに移した。送迎は市と社協が行い事業継続支援を実施。7/11～12/23</p>	<p>①らくらく号の利用回数2019.10～2020.6)は小野地区について2番目に多く利用されている。</p> <p>②塩入シニアの会が立ち上がり、地域の環境美化と地域助け合い活動とし高齢者宅の草刈り等を行っている。今後女性会員を増やし見守り活動を行う予定。（塩入）</p> <p>③各サロン団体は、新型コロナウイルス感染対策を行いながらフレイル予防として活動を継続している。また、サロン活動に参加していない方の近況について把握。</p> <p>④地域の支え合いに関心を持っている福祉事業所が、認知症挨拶運動等を実施。</p>	<p>①移動や買い物支援等に対する地域住民のニーズの把握が必要である。</p> <p>②協議体で出された今後取り組んでみたい事柄について、実施に向けた具体的な話し合いが必要である。</p> <p>③高齢者の支え合い活動について、大塩地域にある福祉関係者との情報共有が必要である。</p>	<p>①自治協議会、健康福祉部会、市民センターと連携し各自治会毎に自治会役員、民生委員、ボランティア団体等と情報交換を行い、地域の現状を把握する。</p> <p>また、要介護・要支援者の現状について包括支援センターやケアマネージャーから高齢者の現状について情報収集を行う。</p> <p>②取り組んでみたい事柄について、地域でできる事、市民センターや社協、行政等関係機関とつながってできる事などを整理していき、可能な事柄から取り組んでいく。</p> <p>③大塩地域にある福祉施設、特に認知症地域支援推進員との連携を図り地域の現状に応じた支え合い活動を進める。</p>

地区名	今年度の計画	実施してきた内容	地域で出来ていること	課題	今後の方向性
矢本東地域 (眞籠)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域キーパーソンの可視化</li> <li>●地区民生委員・児童委員の情報交換の場の設置</li> <li>●既存組織と連携した人材育成に係る情報共有の場の設置</li> </ul>	<b>【地域支援活動】</b> ①地域サロン活動運営者との運営に関する情報交換。 ②地域内ボランティア団体会議への参加による情報共有及び連携。 ③地域のサロン活動や自治会役員への訪問を通じた関係構築。 ④地域ケア会議を通じた高齢者の生活状況の把握と専門的な支援が必要な人の包括支援センター等へのつなぎ。	①自治会役員やサロン運営者中心に地域内でのサロン活動が運営され、参加者も楽しんで参加。 ②まちづくり協議会でコミュニティづくりの一環としてのお茶会支援事業を実施している。(お茶会現物助成13団体) ③地域内のボランティア団体(大鷹会)が積極的に色んなサロン活動支援や高齢者の地域生活に関する講演会などを開催。	①自治会役員やサロン運営者の負担が大きく、現状の活動状況のままとなり手が少ない。 ②サロンの活動費について、現在赤い羽根共同募金の住民支え合い事業助成金を利用しているが、助成金の財源がなくなると次年度以降助成金がなくなるので、活動費の捻出方法について課題がある。	①自治会役員やサロン世話人へのサポートの継続 ②市役所の通いの場助成金の他、社協の助成金の活用やまちづくり協議会保健福祉部会お茶会支援事業活用による運営。また、一般企業で実施している助成金活用についての情報提供。
矢本西地域 (眞籠)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域キーパーソン及び地域状況の可視化</li> <li>●民生委員・児童委員の情報交換の場の設置</li> </ul>	<b>【地域支援活動】</b> ①民生委員と訪問活動に関する情報交換。 ②サロン活動訪問による高齢者の生活状況の聞き取りを実施。	①自治会と民生委員の連携がとれており、訪問活動での気になる状況については包括支援センター等専門機関につなげている。 ②地域内のボランティア団体が積極的に色んなサロン活動支援や高齢者の地域生活に関する講演会などを開催。	①公営住宅で組織されている自治会内のつながりが弱いため、つながりの再構築を必要がある。 ②自治会やサロン等の地域活動での世話役の負担が大きい。	①公営住宅内の顔の見える関係づくりについて、市民協働課と連携し検討していく。 ②自治会役員やサロン世話人へのサポートの継続
小野地域 (渡辺)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新道町内会自治会での住民支え合いマップづくり</li> <li>●事例発表会や地域資源一覧表の更新による地域資源の周知・啓発</li> </ul>	<b>【地域支援活動】</b> ①新道町内会主催見守り会議への参加を通じた地域生活支援の状況把握。 ②サロン活動訪問やサロン送迎(一部地区)を通じた高齢者の生活状況の把握。	①新道町内会では見守り会議を実施、高齢者や地域の気になる方の情報について専門機関も交えて共有。 ②地域内の介護事業所と連携してお茶会等を開催。	①自治会長や自治会役員の中でも支え合いに関する意識に差がある。 ②地域の独居高齢者等の見守りに関して、個人情報をごくまで共有すればいいか地域住民が悩んでおり、地域内での会議では情報の共有がされない。	①支え合い活動の意義の啓発と、各地区での取り組み状況について調査する。 ②包括支援センターと連携し、地域ケア会議等を通じて地域内の見守りに関する情報共有の機会を積み重ねていく。
宮戸地域 (渡辺)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宮戸コミュニティ推進協議会専門部会への参画</li> <li>●民生委員・児童委員並びに保健推進員との情報交換会の実施</li> </ul>	<b>【地域支援活動】</b> ①百歳体操やサロン活動を訪問して、活動状況や生活状況の聞き取り実施。	①浜ごとのつながりが強く、気に掛ける関係が出来ている。 ②漁業が中心の地域であり、漁業を通じた人との交流やつながりが平時からある。 ③お茶会やカラオケ等楽しめる事は自然と人が集まる。 ④移動販売が週4日3か所の業者が入っており、その中で気に掛け合う関係が出来ている。	①東日本大震災の影響で人口減少しており、高齢化率が40%を超えている。高齢化や世帯構成人数の減少により、今までの人のつながりや支え合いが無くなる懸念がある。今後は意識的に地域の支え合いについて考えて行く必要がある。	①百歳体操やサロン活動団体に加えて、自治会(まちづくり協議会)役員や民生委員児童委員などから宮戸地区の高齢者の生活状況について聞き取りをおこない現状を把握する。
市全域で共通する項目について			①百歳体操サークルやお茶会など、顔の見える関係づくりの取り組みを実施している。 ②百歳体操やお茶会に参加していない、地域内の高齢者がどのような生活をしているか気になっている。 ③自治会が中心となり、地域活動や社協支部としての地域福祉活動を展開している。	①百歳体操サークルやお茶会の世話役や代表者の負担が大きく、現状のままとなり手が少ない。 ②百歳体操やお茶会に参加していない人の具体的な暮らしぶりが分からないため、どのようなニーズがあるのかを自分事としてとらえる必要がある。 ③自治会で取り組む事業が多く、役員の負担が多い状況となっており、支え合いについて深く検討する場面を作るのが難しい状況がある。	①参加者がそれぞれ役割を持って参加する事の重要性の啓発と、自治会役員及びサロン世話人のサポートの継続。 ②地域包括支援センターやくらし安心サポートセンターとの連携の他、個別ケースに関わっている介護支援専門員等との連携を強化し、地域生活ニーズを積み重ね地域へ啓発していく。 ③ボランティア活動で様々な活動をやっている人と、自治会が連携できるよう、研修会の開催等を通じ働きかけていく。

市全域に関する意見整理

第2回委員会で出た意見	課題	対応状況及び今後の取り組み
<p>・今までは公助の部分で出来ていたものであっても、少子高齢化で人口減少していく中では、自助・共助の部分ともある程度リンクしていかないと厳しい。マンパワーや地域の意識の高まりが違う事を認識する必要がある。</p>	<p>・マンパワーや地域の支え合いに関する意識の現状がどうなのか分析する必要がある。</p>	<p>・現在、各コーディネーターが地区ごとのアセスメント実施中。今後も継続して地域情報を収集し地域ごとの状況に合わせて、協議体の中で協議していきます。</p>
<p>・サロンに参加していない人が気になる。</p>	<p>・サロンに参加していない人の生活状況について、詳細まで把握できていないため、参加していない高齢者の活動について把握しているケアマネや団体、個人からの情報収集が必要である。</p>	<p>・コーディネーターのサロン訪問時に、サロン世話人から参加していない方の生活状況についてヒアリングをおこなう他、ひがまつ安心サポート事業利用会員への同行訪問や、介護支援専門員が関わっているケースについて情報収集をおこないます。</p>
<p>・個別支援について専門性が高いものとそうでないものもあり、支援の主体を誰が担えるのか整理する必要がある。</p>	<p>・個別ケースと関わる際の専門機関と地域の支援者の関わりについて共有できていない状況があり、今後専門機関と地域が一体的に生活支援について検討する事が必要である。</p>	<p>・地域が個別ケースを意識する方法について、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターが地域ケア会議や多機関ネットワーク会議で検討していきます。</p>
<p>・企業なども地域社会のひとつとして、地域にどう関わればいいのか考えている企業も多いと思う。</p>	<p>・企業の地域に関する意識について状況を把握できていない状況がある。</p>	<p>・地域資源一覧の見直しを通じて、企業の思いや考えについてもヒアリングを実施します。</p>
<p>・ここに出てきた課題をどう施策に反映させてシステムを作っていくかが大事。地域包括ケア推進会議、在宅医療・介護連携会議、認知症ケア連携会議の会議体の在り方について明確化するとともに、役割整理が必要。</p>	<p>・市の地域包括ケアシステムの構築に向けた、各会議体の位置づけや具体的役割等、引き続き検討と情報の共有が必要である。</p>	<p>・地域包括ケアシステムを推進するため、各会議体の機能醸成を図るとともに、第1層コーディネーターが会議に参加するなどし、相互の役割や進捗等、関係者、関係機関への情報の共有に努めます。</p>



# 東松島市地域包括ケアシステムと地域支援事業

## ◆地域包括ケア推進会議

- SOSネットワーカー
- 見守り協定（石巻信金）
- 見守り協定（河北新報）
- オレンジセーフティネット

- 認知症初期集中支援チーム

## ◆認知症ケア連携会議

### 認知症総合支援事業

- 認知症カフェ
- 認知症フォーラム
- 認知症サポーター
- 地域出前講座

### 在宅医療・介護連携推進事業

#### ◆在宅医療・介護連携協議会

- 奨学金返還助成
- 入退院支援
- 日常の療養支援
- 緊急時の対応
- 看取り
- 多職種研修会

認知症地域支援推進員

ケアマネージャー

### 戦略の立案 市・包括 ◆地域ケア会議

生活支援コーディネーター

### 生活支援体制整備事業

#### ◆地域支え合い推進会議

- シルバーメイト
- 地域見守り活動
- 子ども食堂

### 介護予防・日常生活自立支援事業

- 訪問型短期集中予防サービス（訪問C）

- 通いの場（百歳体操ext.）
- ふまねっと運動教室
- こころと体の得するお話（B型）

- A型サービス
- 地域リハビリテーション活動支援



## 令和2年度東松島市地域支え合い研修会アンケート集計結果

赤井地域研修会 アンケート集計

アンケート回収 33名

### ①年代

30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1人		5人	13人	13人	1人

### ②研修の感想

とても満足	満足	やや不満足	不満足
16人	17人	0人	0人

### ③どのような点が良かったか（※複数回答可）

役立つ情報が得られた	抱えていた問題・不安解消につながった	他の参加者との交流・情報交換が図られた	日頃の生活や活動の参考になった
22人	12人	8人	19人

### 良かった点の具体的な内容

- 取り組みの方向性がみえた ・2025年問題は子どもの問題というのが強烈な言葉だった
- コロナ禍の中で、できる事や行動する事を考えさせられた
- 新しい考え方ができた ●さらに深く知る事があった ●社会性がとても大切な事が分かった
- 「安心すると関心が切れる」部分は多々あると痛感
- 高齢の人たちへの意識と今後の自分の行動を考えるきっかけになった
- 今できているつながりを大切に切らないように声かけをすること、普段のつながりが大切だと気付き「自覚」をもってやりたい
- これからの介護予防について ●支え合い、介護予防と地域づくり ●フレイル予防について

### ご意見・感想

#### （ご意見）

- 西区自治会役員も参加して欲しかった
- 詳しく教えてもらいよかった
- 配布以外のデータが欲しい
- 支え合いについて、もっと研修したい

#### （感想）

- 資料に工夫がされていて、飽きないように研修が展開された
- 社会性+役割=社会参加、まだまだ活動が不十分な地域なので今後も積極的に活動したいと思った
- 滞っていた活動の再開に向けて背中を押してもらった話でとても良かった
- 4班で発表した方が、なんだか分からなかった。班で話した意見はいい意見だったのに持論の発表で終わったのが残念
- 上手な話術で、中身の濃い内容の研修が短く感じた
- 地域の支え合いが一番大切という事がよく分かりました
- 家族はもちろん、他の人たちへの思いやり精神を養うきっかけになった
- 研修全体の説明がよかった、おもしろかった

## 大曲地域研修会 アンケート集計

アンケート回収 50名

### ①年代

30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
	4人	5人	17人	23人	1人

### ②研修の感想

とても満足	満足	やや不満足	不満足
21人	29人	0人	0人

### ③どのような点が良かったか（※複数回答可）

役立つ情報が得られた	抱えていた問題・不安解消につながった	他の参加者との交流・情報交換が図られた	日頃の生活や活動の参考になった
34人	7人	7人	30人

### 良かった点の具体的な内容

- 全てが納得する ●社会参加と運動機能の低下の関係 ●言葉の名前が分かった
- プレフレイルの段階で少しでも健康な状態に戻す事 ●知らない情報が得られた
- 社会とのつながりがなくなるとフレイルにつながる考え方が違った
- 2025年から始まる問題がわかった ●わからなかった事が分かりやすく大変勉強になった
- サロンに参加しない人に対する話がとても参考になった（つながり）
- これからの介護予防、食事での会話、運動でフレイル予防、奪われる社会性の内容で支え合いの大切さがわかった ●これから気にかけていくべきことが分かった ●社会性について知る事ができた
- 個人的に見守りをしていいのだと思った
- 気に掛けることと生活支援体制のつながりの大切さを知った
- つながりの大事さを認識した ・健康寿命のためには、社会とのつながりが大事だと知った
- 何気ない会話とサロンに参加しなくても、気にかけてくれる人がいるという事に気付いていればいいことがわかった ●これまでの取り組みが間違っていなかったと気付いた
- コロナ禍だからできないではなく、どうやったらつながりを持てるのか考える事が大事だと気付いた ●社会性について知る事ができた
- 日頃のサロン活動の参考になった ●フレイル予防のパッケージ（健康寿命を延ばす活動）が大切であるということを知った。
- コロナ禍だからこそやるべきという根拠が明確になった ●介護予防を勘違いしていたのに気付いた

### ご意見・感想

（ご意見）

- もう少し情報（教材）が欲しかった
- 話し合う時間がもう少し欲しかった
- 機会があれば若い人に向けた研修をお願いしたい
- 男性の参加が少なくても課題にしなくて良いという話があったが、1人で孤立している人も多いので、見守り方やつながるための手法について具体例を挙げてもらうとよかった

(感想)

- 理解しやすい話題、対応の仕方等とても参考になった次回があれば再度参加したい
- 高齢者が過剰に自粛する事でフレイルが起きる
- 同居していても1人で食事する事が多いので気を付けたい
- 自分の思っている事と別の意味がある部分が沢山あった
- 支える側が一人でも多く必要と改めて感じた。コロナ禍の中、年代を問わず気に掛けるという事が大切だと感じた
- 日常生活について大変参考になった
- 要点だけ書いてあった資料でとても分かりやすかった
- 社会参加が身体活動につながっていることを他の人にも声がけをしていきたい
- とても理解しやすい資料で面白く見られた ●特に新しい知識は得られなかった
- 講師先生の講話は分かりやすく納得できた、特に男性はサロンに参加しないという話は納得した。
- コロナだからやらない、できないではなく、出来る事を考えなければと感じました。数値化できない声がけや関りを少しずつおこなっていきたい
- 1人1人の社会参加が大事だと思う
- 数値化されないサロン、これこそが目指すべきものと理解し、とても参考になった
- コロナ禍でも社会性の大事さに気付かされた
- 支え合いの考えが分かりやすかった

市全域研修会 アンケート集計

アンケート回収 40名

①年代

30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
7人	4人	6人	12人	11人	0人

②住んでいる地域

赤井	大曲	矢本東	矢本西	大塩	小野	野蒜	宮戸	市外
9人	11人	5人	4人	2人	1人	5人	0人	3人

③研修の感想

とても満足	満足	やや不満足	不満足
22人	18人	0人	0人

④どのような点が良かったか（※複数回答可）

役立つ情報が得られた	抱えていた問題・不安解消につながった	他の参加者との交流・情報交換が図られた	日頃の生活や活動の参考になった
32人	5人	7人	30人

良かった点の具体的な内容

- 課題の理解と、そこから進んでいく方向がよく分かった、自分たちがやろうとしている事は間違いな  
いと分かった
- 「支えられる側の学び」を考える必要があること
- 仕組み作りの前に地域づくりをする、行政が落ち入るつまずく原因だと感じた
- 事業実績とならない地域のつながりへ目を向ける、市のまちづくりの原点を聞いたような気がした
- 支え合いの仕組みと協議体として今後何をしていくかが明確になった
- 平住民、2層や3層の協議体の大事さが分かった
- 支援される立場の大事さが分かった
- 「助けて」と言えない人（自分も含めて）が多い今後、どのようにして言える人を増やすか、気になる  
事が大事だとわかった
- できない事は支援、できる事は応援することの重要性が分かった
- ケア、施設につながっている人の地域支えが欠けやすい事が分かった
- 支援される＝選択できない人、支援する＝選択できる人というのがよく分かった
- 不安を抱えている事等について学ぶことができた
- 「支え」「合い」の意味の内容を知り、高齢者への気づきの大切さを知った
- 日頃は支える事に重きを置き活動をしていた、支えられる側になっても社会参加できる事を学び、将  
来に明るさが見えた気がする
- 自分たちの活動に力を得ることができた
- 地域のつながりが良好なほど、健康寿命につながる事が分かった
- 地域とのつながりの重要性が分かった
- 自分も支えられる立場になる事を起点にした活動をしていきたいと思った
- 支えられる側の学習が必要という部分が勉強になった

- 2回聞けてよかった、介護保険制度とのつながりを意識することは考えていなかったのも、とても良かった、協議体の説明もあり満足
- 支援される方々の気持ちを深く考えた事がなかったので、支援される側の気持ちについて理解した
- 「支え合い」とはどういうことか客観的に見れるようになりそう
- 「支え」と「合い」を分ける、支えられる視点に立つことの重要性に気付いた
- 支え合いの役割とフレイル予防、相手の立場で動くことを学んだ
- 地域づくりが基本である事を再度認識した
- 支えられる側の視点
- つながりの持つ意味、価値を再認識できた

## ご意見・感想

### (ご意見)

- 楽しい研修で多くの事を学べた、是非研修資料のデータが欲しい
- サロン活動の方法、支え合いについてコロナ禍で緊急課題として話し合うためにちょっとした他地域の例があるとよかった
- 行政（市）の職員の参加をさせるべき
- 意見交換の時間をもっと長く確保して欲しかった
- グループ内でワークショップができたらいと思う
- 資料の内容について情報をもう少し詳しくして欲しい

### (感想)

- 「宮城県被災者支援従事者研修事業」とあるが、震災後に以前の課題に加え、既存コミュニティが崩壊した点から被災者支援従事者に当てはまると思った
- 資料もポイントが抜粋されており、程よく書き込むことが必要なので学びにつながりやすい研修だと思った。
- 人に頼られる、人に頼る本当に助け合いで生きているのだと思う。話を聞いて大変良かった
- 2025年問題について子ども、孫の代まで続く課題として自覚認識した。地域のつながり、社会参加の重要性を感じつつ出来る限り実行していきたい
- 酒井先生の研修会は3回目でしたが、楽しくとても聞きやすくなる勉強となりました
- 意見交換会で各地をまわっていると、どの自治会も高齢者を心配し何らかの活動をしているがバラバラな状況。横につながって欲しい事を伝えるも、横のつながりの必要性についてピンと来ていないようだが、酒井先生の話で納得する方は大勢いると感じた
- この資料を基に地域のつながりを再勉強したいと思う
- 各地域の協議体の活動状況を知る事ができてよかった
- 参加者の当事者意識を喚起できる内容だったと思う